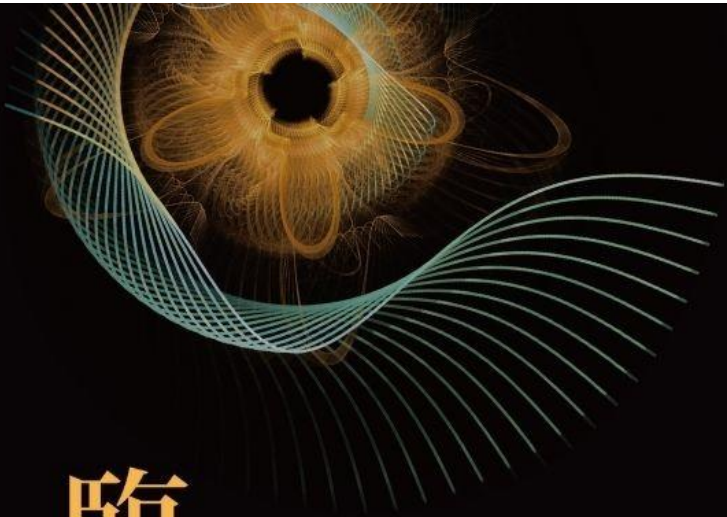


第8回 日本フォトダーマトロジー学会 学術大会

<講演要旨集>



光の
科学
HIKARI NO KAGAKU

To 臨 床 展 開
RIN SHO TEN KAI

会期：2025 年 11 月 14 日（金）

会場：ビジョンセンター東京京橋 401A・Web 開催（Live 配信）

会頭：国定 充（兵庫県立はりま姫路総合医療センター 皮膚科）

【会頭挨拶】

この度、第8回 日本フォトゲーマトロジー学会・学術大会を、2025年11月14日（金）に東京（Web 同時開催）にて開催する運びとなりました。

日本フォトゲーマトロジー学会は、太陽紫外線防御研究委員会、光老化研究会、近赤外線研究会を母体とし、光線皮膚科学に関わる研究者が集う学会であり、光線性皮膚疾患、光老化、光発がん、光防御、光線治療、レーザー治療など多岐にわたる研究を通し、光線皮膚科学の発展を目指して活動しております。

このような学会の学術大会の会頭を拝命いたしましたことを、理事長の森田 明理先生ならびに学会関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

今回の学術大会のテーマは「光の科学 to 臨床展開」といたしました。

トピックス1では、紫外線（光）治療に特化した治療の最前線について、神戸ほくと病院 皮膚科・美容皮膚科の長濱通子先生、神戸大学 耳鼻咽喉科頭頸部科の四宮弘隆先生にご講演いただき、トピックス2では、光に関連する疾患について、富山大学学術研究部医学系皮膚科学の三澤恵先生、島根大学 名誉教授の大平明弘先生にご講演いただきます。

また、毎年恒例の光老化啓発プロジェクト委員会との共催によるシンポジウムでは、日本化粧品学会が2024年度の事業計画に掲げる「サンスクリーン製品の新規効能表現に関するガイドライン」の改訂活動に関わる話をご講演いただく予定です。

光に関わる疾患からその治療まで、「光」の臨床展開に焦点を当てた本年の学術大会。

ご参加いただく皆様にとって有意義な学びの場となるよう、努める所存です。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。



会頭：国定 充
(兵庫県立はりま姫路総合医療センター 皮膚科)

【開催概要】

第8回 日本フォトダーマトロジー学会・学術大会

テーマ 「光の科学 to 臨床展開」
日 時 2025 年 11 月 14 日（金）
会 場 ビジョンセンター東京京橋 401A・ Web 開催（Live 配信）
〒104-0031 東京都中央区京橋 3-7-1 相互館 110 タワー4F 401A
会 頭 国定 充（兵庫県立はりま姫路総合医療センター 皮膚科）
大会 URL <https://jpds.npo-hifu.net/8th-annualmeeting/>
事務局 特定非営利活動法人 皮膚の健康研究機構内 日本フォトダーマトロジー学会 事務局
TEL：03-6435-3868 / FAX：03-6745-7678 / E-mail：info@npo-hifu.net

【会場へのアクセス】

ビジョンセンター東京 京橋

〒104-0031 東京都中央区京橋 3-7-1 相互館 110 タワー4F 401A

<https://www.visioncenter.jp/tokyo/kyobashi/access/>

交通アクセス

<東京メトロ銀座線>

「京橋駅（2 番出口）」徒歩 0 分 駅直結

<都営浅草線>

「宝町駅（A4 出口）」徒歩 2 分

<JR 各線>

「東京駅 八重洲南口（地下街 4 番出口）」
徒歩 5 分

<東京メトロ有楽町線>

「銀座一丁目駅（7 番出口）」徒歩 3 分



【参加者へのご案内】

参加者の皆さまへ

■参加事前登録

参加にあたっては事前登録が必要となります。参加お申し込み及び参加費のお支払いにつきまして Web 決済システム「Peatix」を導入しております。以下 URL へアクセスまたは QR コードを読み取りいただき、お手続きをお願いいたします。

<https://jpds-8th.peatix.com>

※Peatix にご登録がない場合は新規登録が必要となります。

Peatix 新規登録、大会参加登録の流れはホームページをご参照ください。

<https://jpds.npo-hifu.net/8th-annualmeeting/registration.html>



■参加費

一般参加（現地参加・Web 参加とも）： 7,000 円

以下の方は、参加登録時に「学会事務局からお知らせするクーポンコード」をご入力ください。

（参加登録時に以下の金額を確認してから登録してください。）

- ・ 学会役務者（座長、招待演者）： 無料
- ・ 賛助会員（賛助口数×1 名）： 無料
- 賛助会員（追加参加 1 名につき）： 5,000 円

※お支払いはクレジットカード決済のみとなります。

■現地参加のご案内

参加受付は、9 時 30 分から会場にて行います。

Web 決済システムにて登録完了後、ご登録のメールアドレスに『お申し込み詳細』メールが配信されます。当日受付にてメール画面をご提示いただくか、画面を印刷してお持ちください。参加証とお引換えいたします。

※事前登録がお済みでない場合は、受付で参加費をお支払いください（現金のみ）。

■Web 視聴（Live 配信）のご案内

本大会は Live 配信を行います。ご視聴は、ご登録いただいた Peatix 第 8 回学術大会サイトへログイン後、「（オンライン）イベントに参加」ボタンより視聴画面へ遷移できます。登録完了後に配信される『お申し込み詳細』メールの「イベント視聴ページに移動」からも視聴サイトへアクセスいただけます。

※セミナー開始のお時間（10 時）までは学会サイトもしくは、待機画面が表示されます。

開始時刻になりましたら画面が表示されご視聴いただけます。

【役務者（座長・演者）、理事へのご案内】

理事の皆さまへ

13 時 20 分より、4 階 401A 会議室（控室）にて理事会を開催いたします。

座長の皆様へ

ご担当のセッション開始 5 分前までに次座長席へご着席ください。

プログラムの時間通りの進行に、ご協力をお願いいたします。

演者の皆さまへ

■発表方法

- ・当日の発表について、会場もしくは Web どちらで行うかを 10 月 31 日（金）までに事務局（info@npo-hifu.net）までご連絡ください。

■発表資料

- ・会場で発表される演者の方は、講演開始 60 分前までに PC 受付をお済ませください。
事前のご提出も承っております。事務局（info@npo-hifu.net）までお送りください。
できる限り、事前にご提出いただけましたら幸いです。
- ・Web で発表される演者の方は、11 月 7 日（金）までにスライドデータを事務局（info@npo-hifu.net）までご提出ください。

■発表形式

- ・講演は全て PC 発表とします。当日データを持参される方は USB メモリにてファイルをお持ちください。
- ・PC は、Windows11 です。
- ・Macintosh で作成したパワーポイントをご使用の場合、Windows で再生すると文字のずれや画像のゆがみが生じる場合がありますので、ご自身の Macintosh PC をご持参ください。
- ・持ち込み PC も受け付けいたします。その際アダプター、コネクター（HDMI）のご準備をお願いいたします。
- ・動画再生される場合はスライドを事前に事務局（info@npo-hifu.net）までお送りいただくか、ご自身の PC をお持ち込みください。

■発表時間

- ・講演時間は演者紹介および質疑応答を含めた時間です。時間厳守のご発表をお願いいたします。（一般演題：発表 7 分、質疑応答 3 分）

【プログラム】

開会挨拶 10:00～10:05

第8回会頭 国定 充（兵庫県立はりま姫路総合医療センター 皮膚科）

一般演題 10:05～11:05（発表7分、質疑3分）

座長 国定 充（兵庫県立はりま姫路総合医療センター 皮膚科）

加治屋 健太郎（株式会社資生堂 みらい開発研究所 シーズ開発センター長）

一般演題1. 『光線性弾性線維症の人種・民族横断的な解析』

池内 正剛（花王株式会社 スキンケア研究所）

一般演題2. 『東アジアの7都市におけるシミの特徴把握とその要因解明 ～慢性的な紫外線
暴露の影響～』

菊地 久美子（株式会社資生堂 みらい開発研究所）

一般演題3. 『紫外線対策下の色素性乾皮症患者における曝露紫外線量の実験的定量化』

山野 希（神戸大学大学院医学研究科内科系講座皮膚科学分野）

一般演題4. 『老人性色素斑維持におよぼす光老化線維芽細胞由来因子の影響』

鶴田 純将（DRC 株式会社）

一般演題5. 『光の刃に抗う天然高分子—スイゼンジノリ多糖体「サクラネクス™」による
紫外線誘導炎症の抑制』

小川 竜平（DIC 株式会社 R&D 統括本部 バイオマテリアル開発センター）

一般演題6. 『紫外線照射によるコラーゲンの質的变化が真皮線維芽細胞との相互作用に
及ぼす影響』

浅利 亜由美（ユースキン製薬株式会社、東京薬科大学 薬学部 生化学教室）

トピックス 1 11:10～12:10

テーマ『光治療の臨床応用がさらに進んでいる』

座長 森脇 真一（大阪医科薬科大学皮膚科学教室）

国定 充（兵庫県立はりま姫路総合医療センター 皮膚科）

講演 1.『レーザー光による小児のアザ治療最先端』

長濱 通子（神戸ほくと病院 皮膚科・美容皮膚科、神戸大学医学部附属病院皮膚科）

講演 2.『頭頸部癌に対する光免疫治療の現状』

四宮 弘隆（神戸大学大学院医学研究科 外科系講座 耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野）

スポンサードセミナー（ランチョンセミナー） 12:15～13:15

共催 日本イーライリリー株式会社

座長 久保 亮治（神戸大学 大学院医学研究科 内科系講座 皮膚科学分野）

講演 『アトピー性皮膚炎における全身療法 ～イブグリースのポジショニング～』

松下 貴史（金沢大学 皮膚科）

<休憩> 13:15～13:40 ※ 理事会（13:20～13:40）

トピックス 2 13:45～14:45

テーマ『臓器から光を感じ取り臨床に役立てる』

座長 大磯 直毅（近畿大学奈良病院 皮膚科）

大日 輝記（香川大学 医学部・医学系研究科 皮膚科学）

講演 1.『皮膚ボルフィリン症 ―新しい診療ガイドラインと全国疫学調査―』

三澤 恵（富山大学 学術研究部医学系 皮膚科学）

講演 2.『近視進行を左右する光環境の分子ネットワーク：光受容体 OPN5 から TXNIP 酸化ストレス経路へ』

大平 明弘（島根大学 名誉教授）

スポンサードセミナー（スイーツセミナー） 14:50～15:50

共催 瀧定名古屋株式会社

座長 森田 明理（名古屋市立大学大学院医学研究科 加齢・環境皮膚科）

講演 『太陽からの近赤外線による肌の温度上昇を防御する生地の開発と検証』

宮川 朋之（瀧定名古屋株式会社 高機能商品開発販売課）

シンポジウム 15:55～16:55

共催 光老化啓発プロジェクト委員会

テーマ『サンスクリーンによる光老化の防御—古くて新しい話題—』

座長 畑尾 正人（日本化粧品工業会 研究主幹）

正木 仁（東京工科大学 前教授 株式会社 CIEL）

講演 1.『抗光老化の臨床展開に向けて：紫外線防御の科学と新ガイドライン』

森田 明理（名古屋市立大学大学院医学研究科 加齢・環境皮膚科）

講演 2.『光老化研究 1986-2025』

森脇 真一（大阪医科薬科大学 皮膚科学教室）

抄録賞（一般演題）授与 17:00～17:10

プレゼンター 森田 明理（名古屋市立大学大学院医学研究科 加齢・環境皮膚科）

閉会挨拶 17:10～17:20

第8回会頭 国定 充（兵庫県立はりま姫路総合医療センター 皮膚科）

第9回会頭 大磯 直毅（近畿大学奈良病院 皮膚科）

【講演要旨】

一般演題 10:05～11:05 (発表7分、質疑3分)

座長 山本 学 (大阪公立大学大学院医学研究科視覚病態学)

西村 隆宏 (大阪大学大学院工学研究科)

一般演題 1. 「光線性弾性線維症の人種・民族横断的な解析」

池内 正剛¹、桐野 彩²、高野 圭¹、近藤 雅俊¹、中村 俊²、笠松 慎也³、高橋 慶人¹、吉田 浩之¹

1.花王株式会社 スキンケア研究所 2.花王株式会社 解析科学研究所

3.花王株式会社 ヒューマンヘルスケア研究所

光線性弾性線維症は、日光への長期暴露によって真皮内に異常な弾性線維が蓄積する皮膚老化現象である。今回、本症状の人種・民族横断的な特徴を理解することを目的とし、生検皮膚の生化学的および組織学的解析を行った。4つの人種・民族からなる17検体の高齢者露光部皮膚のプロテオーム解析から、光老化ステージと最も高く正相関するタンパク質として Clusterin を同定した。免疫蛍光染色の結果、Clusterin は若齢者と高齢者の露光部と非露光部のうち、高齢者露光部皮膚でのみ強く発現していた。また、光老化で増加した Clusterin は弾性線維の主成分である Elastin と相互作用を示した。以上より、光老化に特異的な Clusterin の増加は人種・民族横断的に認められる特徴であり、皮膚組織中における異常な弾性線維への Clusterin の結合は、光線性弾性線維症の普遍的機序の一つであると考えられた。

一般演題 2. 「東アジアの7都市におけるシミの特徴把握とその要因解明 ～慢性的な紫外線暴露の影響～」

菊地 久美子¹、柴田 貴子¹、吉川 達也¹、真弓 聡²、河合 江理子³、村田 大知⁴

1.株式会社資生堂 みらい開発研究所 2.資生堂ジャパン株式会社

3.Shiseido Americas Innovation Center 4. Shiseido China Innovation Center

皮膚科学が直面する課題の一つは、肌の老化の特徴である色素沈着の形成プロセスに寄与する内因性および外因性要因を明らかにすることである。光老化は太陽光への長期的な曝露によって引き起こされ、色素沈着の形成に重要な役割を果たす。遺伝的要因、環境要因（特に紫外線曝露）、ライフスタイル要因が色素沈着に影響を与えるが、それらの寄与の大きさはまだ十分に解明されていない。本研究では、東アジアの7都市で20歳から69歳のアジア人女性1,836名を対象に、非侵襲性機器を用いて顔の色素沈着の状態を測定し、さらに個人の遺伝的特徴やライフスタイル要因に関するデータを収集した。各都市では、紫外線指数や日照時間を含む気象条件、大気汚染指標、水質などの環境データを収集した。都市間で肌の色調と色素沈着の特徴は異なり、中国の都市では肌

の赤みが強く、日本の都市では色素斑が多い傾向が見られた。色素沈着の形成に紫外線曝露履歴が強く影響することに加え、大きな色素斑の発生には遺伝的要因が関与することが示唆された。本研究は先端デバイスを用いて色素沈着の状態を網羅的・定量的に調査した初めてのものである。得られたデータは光老化対策の意義を広く伝える上で重要になると考えられる。

一般演題 3. 「紫外線対策下の色素性乾皮症患者における曝露紫外線量の実験的定量化」

山野 希¹、瀧口 義浩²、上野 秀貴³、小野 竜輔¹、中楯 龍⁴、菅野 公二⁴、村垣 善浩³、仲西 孝弘⁵、中西 淑人³、久保 亮治¹

1.神戸大学大学院医学研究科内科系講座皮膚科学分野 2.株式会社 TAK システムイニシアティブ
3.神戸大学 未来医工学研究開発センター 4.神戸大学 大学院医学研究科 医療創成工学専攻
5.神戸大学 臨床研究推進センター

色素性乾皮症 (XP) は、紫外線による DNA 損傷修復機能が先天的に欠損し、変異の蓄積により幼少期から多数の皮膚がんを発症する。嚴重な紫外線対策指導の積み重ねにより、過去 30 年間で XP-A 群患者の有棘細胞がん発症率は約 1/7 に減少した。紫外線がんの抑制に有効なこの対策は、装備や環境対策などの行動指針は存在するが、対策下でどの程度紫外線曝露強度・線量が低減されるか、定量的な評価基準が存在しない。行動指針に基づく対策は実行しやすい一方、行動指針外の状況では判断が難しく、患者の不安や負担につながる。そのため、紫外線対策の定量的な評価と振り返りを希望する患者は多いが、XP 患者が使用可能と学術的に検証した強度計はない。本研究では、実験環境で現行の紫外線対策を再現し、XP 患者の曝露紫外線強度を測定する。測定結果をもとに、XP 患者の装着型紫外線強度計に適した感度要件を確定し、機器開発の実現につなげていきたい。

一般演題 4. 「老人性色素斑維持におよぼす光老化線維芽細胞由来因子の影響」

鶴田 純将¹、山脇 裕美子²、Trinh Thi Thuy Linh²、岡野 由利²³、高野 憲一¹、正木 仁²

1.DRC 株式会社 2.株式会社 CIEL 3. SOLA SAS

近年、老人性色素斑 (SL) の形成・維持には老化線維芽細胞と色素細胞のクロストークが関与していることが報告されている。さらに、SL の真皮には CCN1 (SASP 因子) が強く発現していることも報告されている。演者らは、ヒト摘出皮膚 (HES) に UVA を反復照射することにより p16 陽性老化細胞の増加、さらに HES を CCN1 共存下で培養することによる PAR-2 発現亢進を確認している。これらの知見と結果に基づき、SL の維持に関与する表皮細胞 (KC) のメラノソーム (MS) 貪食能における CCN1 の作用を PAR-2 発現亢進に着目して検証することを目的として本研究を実施した。UVA 反復照射によって老化誘導した線維芽細胞は CCN1 を分泌し、CCN1 およびその培養上清は KC の細胞内 ROS の増加、PAR-2 発現亢進を伴う MS の貪食亢進を示した。CCN1 による貪食能の亢進は PAR-2 および integrin $\alpha 6$ 中和抗体処理により抑制されることが確

認された。以上の結果から、光老化皮膚の特徴である SL 維持には老化線維芽細胞由来の CCN1 - integrin $\alpha 6$ - PAR-2 経路による MS 貪食亢進が関与している可能性が示唆された。

一般演題 5. 「光の刃に抗う天然高分子—スイゼンジノリ多糖体「サクラネクス™」による紫外線誘導炎症の抑制」

小川 竜平、南川 夏己

DIC 株式会社 R&D 統括本部 バイオマテリアル開発センター

スイゼンジノリは、九州の限られた湧水域にのみ自生する希少な淡水藍藻であり、絶滅危惧種にも指定されている。スイゼンジノリ多糖体は、ヒアルロン酸の 5 倍以上の保水能を有し、皮膚バリア形成および抗炎症作用を併せ持つ天然高分子として注目されている。

DIC 株式会社は、2022 年に世界で初めてスイゼンジノリの屋内大量培養に成功し、そこから抽出される多糖体を商標「サクラネクス™」として安定供給する体制を確立した。

本研究では、紫外線 (UV) 刺激によって誘発される皮膚炎症応答に対するサクラネクスの効果を、3D 培養表皮モデルを用いて検討した。その結果、UV 照射後にサクラネクスを塗布することで、炎症性誘導因子群の発現が有意に低下することが確認された。

これらの結果は、サクラネクスが高い保湿能に加え、UV 誘導炎症を抑制する機能を有することを示しており、UV ダメージに対応した次世代スキンケア素材としての応用が期待される。

一般演題 6. 「紫外線照射によるコラーゲンの質的変化が真皮線維芽細胞との相互作用に及ぼす影響」

浅利 亜由美¹²、熊谷 瞳子²、尾関 茉弥²、坂上 弘明²³、佐藤 隆²

1. ユースキン製薬株式会社 2. 東京薬科大学 薬学部 生化学教室

3. 国立研究開発法人産業技術総合研究所 細胞分子工学研究部門

【目的】光老化は紫外線 (UV) への曝露によって生じるシワを主徴とした皮膚の変化であり、UV 露光部では細胞外マトリックス (ECM) のひとつであるコラーゲンの断片化や翻訳後修飾が生じることが報告されている。しかしながら、従来の光老化研究のほとんどが細胞に対する UV の影響について注目しており、光老化した ECM と細胞との相互作用については十分に検討されていなかった。本研究では、UVB による ECM の変化が細胞に及ぼす影響を検証した。

【結果】UVB 照射はコラーゲンの照度依存的な分解とカルボニル化を引き起こし、MMP-1 による分解を促進させた。カルボニル化はプロリン、リジン、アルギニンに集中して検出され、コラーゲン全体の構造には大きな影響を与えないものの、熱安定性を低下させることが明らかとなった。また、UVB コラーゲンは細胞接着を低下させることで細胞増殖の抑制とコラーゲン収縮力の低下を引き起こした。

【考察】UVB はコラーゲンタンパク質に多数のカルボニル化修飾を引き起こし、この質的変化が細胞機能の低下を引き起こすことが示された。

トピックス 1 11:10~12:10

テーマ『光治療の臨床応用がさらに進んでいる』

座長 森脇 真一（大阪医科薬科大学皮膚科学教室）

国定 充（兵庫県立はりま姫路総合医療センター 皮膚科）

講演 1. 『レーザー光による小児のアザ治療最先端』

長濱 通子（神戸ほくと病院 皮膚科・美容皮膚科、神戸大学医学部附属病院皮膚科）

光の中でもとくに可視光線を利用したレーザー光による小児のアザ治療が皮膚形成分野では進んでいる。治療原理的には、メラニンやヘモグロビンをクロモファアとし、それらに吸収される波長光を、Photothermal reactions と Selective photothermolysis という2つの理論に基づいたレーザー治療機器によりパルス型発振できることにより、効果的な皮膚アザ治療が可能となっている。乳幼児期はまだアザの面積が小さく、皮膚が薄くレーザー光の深達度がよいこと、表皮の皮膚色素沈着が少ないことなど、成人に比し乳幼児期の方が治療上のメリットも大きい。また近年ではクリーム麻酔薬による局所麻酔での治療が可能となったため、小児の体および精神の発達を考慮し、乳幼児期早期より安全で効果的なレーザー光によるアザ治療が可能となっている。本講演では、豊富な臨床例を用い、小児のアザ治療を紹介する。

【略歴】

1993年 大阪医科大学卒業、神戸大学医学部附属病院皮膚科入局
1998年 鐘紡記念病院皮膚科
2000年 鐘紡記念病院皮膚科 医長
2001年 Dermatology Associates of San Diego County 研究生
2007年 神戸百年記念病院皮膚科・美容皮膚科医長
2010年 神戸百年記念病院皮膚科・美容皮膚科部長
2022年 神戸ほくと病院皮膚科・美容皮膚科部長

【資格など】

医学博士

日本皮膚科学会認定：皮膚科専門医

日本皮膚科学会認定：美容皮膚科レーザー指導専門医

日本レーザー医学会認定：レーザー専門医・指導医

日本臨床皮膚外科学会認定：皮膚外科専門医

日本美容皮膚科学会理事

日本レーザー医学会理事

日本臨床皮膚外科学会理事

日本血管腫血管奇形学会評議員

講演 2. 『頭頸部癌に対する光免疫治療の現状』

四宮 弘隆（神戸大学大学院医学研究科 外科系講座 耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野）

光免疫治療は小林久隆氏が開発した、690nm の近赤外光と免疫を用いた新たな治療法であり、2021 年に頭頸部癌に対して本邦で承認されて以降、施行例は全国で 300 例を超えた。疼痛や浮腫、光過敏といった有害事象への対策も確立されてきており、光照射の方法や対象症例、薬物療法とのタイミングなども徐々に明らかとなってきた。それに伴い徐々に治療成績の報告も良好となってきたものの、まだまだ解決すべき課題は多く、他国での適応拡大の動きもみられていないのが現状である。対象が切除不能な頭頸部癌に限られる点、大血管に近接していると使用できない点、部位によっては有害事象が重篤となりうる点、治療法が高額である点、免疫の作用が実臨床でははっきりしていない点などがあげられる。

本講演では光免疫治療の原理や治療方法を実際の症例を提示しながら解説するとともに、頭頸部癌治療において課題となっていることや、今後の展望について紹介する。

【略歴】

2008 年 4 月	神戸大学医学部附属病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科 医員
2009 年 4 月	兵庫県立がんセンター 頭頸部外科 医員
2010 年 10 月	姫路医療センター 耳鼻咽喉科 医員
2012 年 4 月	神戸大学医学部附属病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科 医員
2016 年 6 月	神戸大学医学部附属病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科 助教
2019 年 7 月	神戸大学大学院医学研究科国際がん医療・研究推進学分野 特命准教授
2024 年 4 月	神戸大学大学院医学研究科 耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野 特命准教授
2025 年 5 月	神戸大学大学院医学研究科 地域社会医学・健康科学講座 地域医療ネットワーク学分野 特命教授

スポンサードセミナー（ランチョンセミナー） 12:15～13:15

共催 日本イーライリリー株式会社

座長 久保 亮治（神戸大学 大学院医学研究科 内科系講座 皮膚科学分野）

講演 『アトピー性皮膚炎における全身療法 ～ イブグリースの ポジショニング ～』

松下 貴史（金沢大学 皮膚科）

近年、アトピー性皮膚炎に対する全身療法として多様な作用機序をもつ薬剤が使用可能となり、患者のニーズも皮疹や掻痒の軽減にとどまらず、一定期間のみの治療による症状改善や通院頻度の低減など、より多様化してきている。こうした背景のもと、各薬剤の特性を活かしつつ、患者一人ひとりの背景に応じた適切な薬剤選択が重視されている。本講演では、2025年5月より投与期間制限が解除された抗IL-13抗体製剤「イブグリース」について、エビデンスと実臨床での経験をもとに、適応が期待される患者像や長期寛解維持を見据えた治療戦略の可能性について解説する。

【所属・役職】

金沢大学医薬保健研究域医学系 皮膚分子病態学(皮膚科学)・教授

【学歴】

1999年 金沢大学医学部医学科 卒業

2006年 金沢大学大学院医学系研究科博士課程修了

【職歴】

1999年 金沢大学皮膚科

2000年 国立国際医療センター皮膚科

2001年 黒部市民病院皮膚科

2002年 石川県立中央病院皮膚科

2003年 金沢大学皮膚科 医員

2006年 金沢大学皮膚科 助手

2007年 Duke 大学免疫学教室研究員 (Thomas F. Tedder 教授)

2010年 金沢大学皮膚科 助教

2013年 金沢大学皮膚科 講師

2020年～現在 金沢大学皮膚科 教授

2024年～現在 金沢大学医薬保健研究域 医学系 副系長（研究担当）

2025年～現在 金沢大学金沢学術アカデミー部門統括長

トピックス 2 13:45～14:45

テーマ『臓器から光を感じ取り臨床に役立てる』

座長 大磯 直毅（近畿大学奈良病院 皮膚科）

大日 輝記（香川大学 医学部・医学系研究科 皮膚科学）

講演 1. 『皮膚ポルフィリン症 —新しい診療ガイドラインと全国疫学調査—』

三澤 恵（富山大学 学術研究部医学系 皮膚科学）

ポルフィリン症は、ヘム生合成酵素の異常によりポルフィリンまたはその前駆体が体内に蓄積し、皮膚症状・神経症状・肝障害など多彩な臨床像を呈する希少疾患である。多くは遺伝性で責任遺伝子も同定されているが、根治療法は確立しておらず、診療機会に限られるうえ症状の多様性から診断が困難であり専門的知識と豊富な臨床経験を要する。これまで国内の臨床学会で正式に承認された診療ガイドラインは存在しなかったが、2025年に日本皮膚科学会が初の診療ガイドラインを発行し、診断・重症度分類・治療指針が体系化された。本ガイドラインは厚生労働省研究班が提唱する診断基準および重症度判定基準に準拠しつつ、最新の国内外の知見を反映している。本講演では同ガイドラインの主要点を概説するとともに、我々が実施した全国疫学調査の結果、特に光線過敏を契機に皮膚科を受診して診断に至ることが多い赤芽球性プロトポルフィリン症に焦点を当てた解析結果を供覧する。

【略歴】

2003年 富山医科薬科大学大学院医学部卒業

2003年 富山医科薬科大学附属病院 医員

2006年 富山大学附属病院 助手

2008年 富山大学附属病院 助教

2013年 富山大学附属病院 講師

2014年 富山大学附属病院 診療准教授（併任）

2014年 医学博士号取得（富医薬博乙第51号）

2021年 富山大学附属病院 診療教授（併任）

講演 2. 『近視進行を左右する光環境の分子ネットワーク：光受容体 OPN5 から TXNIP 酸化ストレス経路へ』

大平 明弘（島根大学 名誉教授）

近視進行に対する治療として、バイオレットライトやレッドライトを用いた光刺激療法の有効性が注目されている。しかし、波長定義や長期安全性、個体差など未解決の課題も多い。これら光療法は網膜の光受容体 OPN5 および酸化ストレス応答を担う TXNIP/Trx ネットワークなど分子機構を介して眼軸伸長を制御すると考えられている。さらに、チオレドキシンや RdCVF などの分子を標的とする新規治療法の開発も重要な展望であり、薬理的・遺伝子工学的介入による分子制御が次世代の近視抑制に貢献すると期待される。近視は多因子疾患であるため、光刺激療法と分子標的治療を組み合わせた統合的戦略が今後必要であり、学際的研究の推進による安全性・有効性の検証が求められる。

【略歴】

1978 年 福岡大学医学部卒業
1984 年 福岡大学大学院医学博士課程修了
1987 年 Duke 大学医学部眼科フェロー
1991 年 京都大学医学部眼科助手
1993 年 長崎大学医学部助教授
1998 年 島根医科大学医学部教授
2003 年 島根大学医学部病院・副病院長
2007 年 島根大学医学部・副学部長
2015 年 島根大学・副学長
2018 年～2024 年 長崎大学客員教授
2018 年 島根大学名誉教授：現在に至る

スポンサードセミナー（スイーツセミナー） 14:50～15:50

共催 瀧定名古屋株式会社

座長 森田 明理（名古屋市立大学大学院医学研究科 加齢・環境皮膚科）

講演 『太陽からの近赤外線による肌の温度上昇を防御する生地の開発と検証』

宮川 朋之（瀧定名古屋株式会社 高機能商品開発販売課）

地球の暑熱化はすでに「災害級の日常」となり、人々は常に熱中症リスクと隣り合わせの時代を生きています。2025年の甲子園大会でも、猛暑対策として試合の2部制拡大やクーリングタイム導入といった新たな取り組みが開始されました。

さらに、衣服の工夫にも注目が集まっています。可視光線による衣服温度の上昇を抑えるため、審判団の靴や帽子を黒や紺から白へ変更するほか、ユニフォームを白基調に切り替える高校も登場しました。

紫外線（UV）が皮膚老化やDNA損傷、皮膚がん、白内障などのリスクをもたらすことは広く知られています。一方、近赤外線（NIR）は体内深部にまで届き、体温上昇や熱中症リスク、さらには光老化（シワ・たるみ）を引き起こす要因ですが、一般への認知はまだ十分ではありません。こうした課題に対応するため、瀧定名古屋株式会社は、紫外線だけでなく近赤外線にも着目した新素材を開発しました。この生地は体温上昇を抑えつつ、紫外線と近赤外線による肌ダメージも防ぎ、熱中症リスク軽減と光老化予防を両立する革新的な太陽光防御素材として期待されています。

【略歴】

2006年 南山大学卒業

2006年 瀧定名古屋株式会社入社 ニット服地部 14 課配属

2022年 高機能商品開発販売課 92 課を設立

近赤外線吸収繊維 NIROL[®]（ナイロール）を開発し、NIROL[®]プロジェクトのリーダーとして、繊維での光老化対策の一般市場での認知化訴求に励んでいる。

2025年 高機能商品開発販売課 課長に就任

テーマ『サンスクリーンによる光老化の防御—古くて新しい話題—』

座長 畑尾 正人（日本化粧品工業会 研究主幹）

正木 仁（東京工科大学 前教授 株式会社 CIEL）

講演 1. 『抗光老化の臨床展開に向けて：紫外線防御の科学と新ガイドライン』

森田 明理（名古屋市立大学大学院医学研究科 加齢・環境皮膚科）

皮膚の光老化は紫外線曝露により惹起される代表的な外因性老化であり、臨床的・美容的に重要な課題である。2006年に日本化粧品学会が初版を公表した「サンスクリーン製品の新規効能表現に関するガイドライン」では、国内外の信頼できる研究報告を整理・解析し、サンスクリーンの長期使用が光老化予防に寄与することを科学的根拠として効能表現を提案した。さらに2017年のコンセンサスステートメントでは、紫外線の有害作用と防御の必要性が体系的に整理され、サンスクリーン使用による予防効果が改めて科学的に位置づけられた。

その後の知見の蓄積を踏まえ、2025年改訂予定のガイドラインでは、従来の「日やけ防止」に加えて「長期間の紫外線曝露によるシワやシミ等（光老化）を予防する」という効能表現が新たに提案された。本改訂では、実使用時にSPF15相当以上かつUVAPF5（PA++）相当以上の防御効果を担保すること、必要量を塗布できるインストラクションの導入、日常的な使用の啓発といった条件が明示されている。本講演では、改訂に至る科学的根拠と国際的な位置付けを整理し、紫外線防御研究の最新知見を共有するとともに、診療現場、化粧品開発、社会啓発における意義を論じ、抗光老化の臨床展開と今後の展望を提示する。

【略歴】

1989年 名古屋市立大学医学部医学科卒業

1990年 名古屋市立大学大学院医学研究科（博士課程・愛知県がんセンター研究所免疫部）

1994年 名古屋市立大学医学部助手

1995-1997年 独デュッセルドルフ大学皮膚科（独フンボルト財団奨学研究員）

1997-1998年 米テキサス大学サウスウエスタンメディカルセンター皮膚科

1998年 名古屋市立大学医学部 講師

2001年 名古屋市立大学医学部 助教授

2003年～ 名古屋市立大学大学院医学研究科 加齢・環境皮膚科学 主任教授

2015年1月～ 名古屋市立大学病院 副院長

2025年4月～ 名古屋市立大学 副学長

講演 2. 『光老化研究 1986-2025』

森脇 真一（大阪医科薬科大学 皮膚科学教室）

紫外線（UV）性 DNA 損傷の修復欠損で発症する色素性乾皮症（xeroderma pigmentosum ; XP）は光老化、光発がんのヒトモデル疾患である。演者は長年にわたり多くの XP 患者の確定診断を行い、XP 患者の診療を行ってきた。XP 患者に対する対応の大きなポリシーは厳重な遮光指導であり、UV 防護服、帽子、手袋、UV カット眼鏡などを使用する物理的遮光、サンスクリーン剤による化学的遮光いずれも重要である。XP 患者への早期からの適切な遮光指導は、もちろん皮膚がんの発症予防に寄与するが、神経症状などの UV 非関連合併症を軽減する効果もある。

今回の講演では、演者が XP という疾患を通じて、光老化進行のメカニズムとアンチエイジングという観点から実施してきた 40 年間の研究の一端を紹介する。

【略歴】

1986 年 大阪医科大学医学部卒
1986 年 京都大学医学部附属病院（皮膚科研修医）
1987 年 国立京都病院（皮膚科研修医）
1992 年 米国国立衛生研究所（客員研究員）
1994 年 兵庫県立尼崎病院（皮膚科医長）
1995 年 兵庫県立尼崎病院（皮膚科非常勤医）
1998 年 浜松医科大学医学部附属病院（皮膚科医員、皮膚科助手）
2000 年 浜松医科大学医学部附属病院（皮膚科講師・外来医長）
2000 年 浜松医科大学光量子医学研究センター（フォトン応答医学研究分野 助教授）
2001 年 浜松医科大学光量子医学研究センター（光環境医学研究分野 助教授）
2001 年 米国国立衛生研究所（文部科学省在外研究員）
2005 年 大阪医科大学（皮膚科学助教授）
2007 年 大阪医科大学（皮膚科学准教授）
2009 年 大阪医科大学 皮膚科学 教授
2021 年 大阪医科薬科大学 皮膚科学 教授

【資格など】

日本皮膚科学会 代議員
日本研究皮膚科学会 評議員
日本光医学・光生物学会 理事
日本美容皮膚科学会 名誉理事長
日本乾癬学会 評議員
日本皮膚悪性腫瘍学会 理事
日本小児皮膚科学会 運営委員
日本香粧品学会 理事

Trubeaute®
powered by SOLAMENT®

未来の肌を、
素材で守る。

NIROLシリーズから生まれた
紫外線だけでなく、近赤外線もカットする
最新の美容機能素材

Lilly



抗ヒトIL-13モノクローナル抗体製剤 薬価基準収載

イブグリース® 皮下注250mg
オートインジェクター
シリンジ

レプリキズマブ(遺伝子組換え)注射液

Ebgliss® Subcutaneous Injection Autoinjectors, Ebgliss® Subcutaneous Injection Syringes

生物由来製品 劇薬 処方箋医薬品(注意-医師等の処方箋により使用すること)
最速使用推進ガイドライン対象品目

効能又は効果、用法及び用量、
警告・禁忌を含む注意事項等
情報等については、電子添文を
ご参照ください。

製造販売元〈文献請求先及び問い合わせ先〉
日本イーライリリー株式会社
〒651-0086 神戸市中央区磯上通5丁目1番28号

Lilly Answers リリーアンサーズ
日本イーライリリー医薬情報問合せ窓口
medical.lilly.com/jp

(医療関係者向け)

0120-360-605^{※1}

受付時間 月曜日～金曜日 8:45～17:30^{※2}

※1 通話料は無料です。携帯電話からでもご利用いただけます。

※2 祝祭日および当社休日を除きます。

PP-LK-JP-0366 2024年5月作成



ヒト型抗ヒトIL-4/13受容体モノクローナル抗体

デュピクセント® 皮下注300mgペン
皮下注300mgシリンジ
皮下注200mgシリンジ

DUPIXENT® デュビルマブ(遺伝子組換え)製剤
生物由来製品、劇薬、処方箋医薬品(注意-医師等の処方箋により使用すること)

「効能又は効果、用法及び用量、警告・禁忌を含む注意事項等情報」等については電子添文をご参照ください。

MAT-JP-2307269-1.0
2023年11月作成

製造販売元: **サノフィ株式会社**
〒163-1488
東京都新宿区西新宿三丁目20番2号

販売提携: **リジェネロン・ジャパン株式会社**



ヒト抗ヒトIL-13モノクローナル抗体

アドトラザ® 皮下注300mgペン
皮下注150mgシリンジ

Adtralza® S.C. Injection トラロキヌマブ(遺伝子組換え)製剤
生物由来製品 劇薬 処方箋医薬品*

*注意 — 医師等の処方箋により使用すること



製造販売元
レオファーマ株式会社
東京都千代田区神田神保町1-105

MAT-79337
2025年1月作成

「効能又は効果」、「用法及び用量」、「警告・禁忌を含む注意事項等情報」等については電子添文をご参照ください。

【文献請求先及び問い合わせ先】
カスタマーコールセンター
電話: 0120-89-0056
受付時間: 9時~17時30分(土、日、祝日を除く)

MEMO

[illegible]



The 8th Annual Meeting of Japanese Photodermatology Society